

〔課題演習抄録〕

自ら運動に取り組む子供を育てる体育科学習指導法の研究  
 -動きを課題とした話し合い活動を通して-

荒川 和輝  
 Kazuki ARAKAWA

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース

キーワード：話し合い活動，自律的活動力，学習カード

1 研究の目的

これからの時代について，小学校学習指導要領解説総則編（2017）は，「今の子供やこれから誕生する子供が，成人して社会で活躍する頃には，我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されている」と述べている。つまり，自分の力で厳しい時代を乗り越えていく力を身に付けさせる必要があると考える。また，小学校学習指導要領解説体育編（2017）は，「習得した知識及び技能を活用して課題解決することや，学習したことを相手に分かりやすく伝えること等に課題があること，運動する子供とそうでない子供の二極化傾向が見られること」などが課題として挙げられている。

これらを踏まえて，体育の授業での話し合い活動に着目し，21世紀型能力である自律的活動力を育成することで課題を解決できるのではないかと考え，本主題を設定した。

そこで，本研究の目的は，体育科の中での話し合い活動に着目し，話し合いを行わせる際の教師の発問や教材・教具の工夫によって子供の話し合い活動を活発にし，自ら運動に取り組む力（自律的活動力）を育成することを目的とする。

2 研究の計画

本研究の計画は，授業の「導入・展開・終末」の限られた時間の中で有効な話し合い活動のさせ方についての先行研究をし，TA 実践インターンシップ実習で実践をした。また，話し合い活動が活発になるような教師の発問や，教材・教具の工夫を行い，実践に取り入れてきた。（図1）

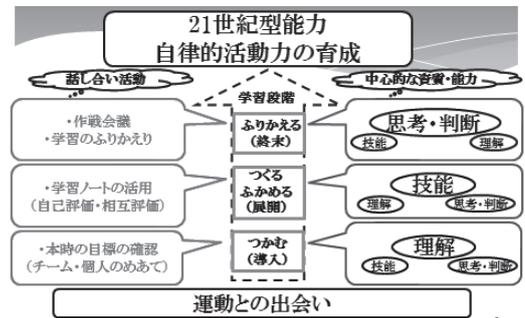


図1 研究構想図

3 研究の内容

(1) 実習校 A の子供の实態

子供の実態として，運動やスポーツに関して肯定的な印象を持っている子供が多い。しかし，運動が得意と感じている子供の運動能力が高いとは限らない。これより，自己の意識と運動能力に差があると感じている。また，話し合い活動に対しての意識も肯定的であり，特に体育の話し合い活動に意義を見出している子供が多く見られた。これより，体育の話し合い活動を工夫し，改善することが重要になると考える。

以上のことを踏まえ，話し合い活動を円滑に行うための教具の工夫や，ルールを事前に決めておくことが必要になると考える。さらに，運動量を確保しつつ，短時間で有効な話し合い活動を行い，自ら運動に取り組む力が高まるようにしていく。

(2) 授業実践 1

- ・実施期間：平成 29 年 5 月～6 月
  - ・対象：福岡県内公立小学校 第 3・4 学年
  - ・単元名：E ゲーム ゴール型 ポートボール
- 授業計画 計 6 時間

1 時間の授業の指導過程としては、以下の流れで設定した。

表 1 1 時間の授業の指導過程

	導入	展開	終末
内容	・準備体操 ・話し合い 活動① ・チーム内 練習	・話し合い 活動② ・ゲーム I ・話し合い 活動③	・ゲーム II ・話し合い 活動④

上記表の話し合い活動の内容として、「①ではチームで本時のめあてを立てる、②ではチーム練習をしてチームとしてどのように頑張るのか、どの作戦を実行するか、③ではゲーム I を終えて振り返りをし、ゲーム II で気を付けたいこと、④では本時の授業の振り返り」を行った。

子供の動きについては、チームで行動し、協力しながら個人の技能を伸ばしていく方法をとった。その結果、練習方法や一人ひとりの役割がチームによって差が生じ、充実感にばらつきが見られた。

### (3) 授業実践 2

- ・実施期間：平成 29 年 10 月～11 月
- ・対象：福岡県内公立小学校 第 3・4 学年
- ・単元名：E ゲーム ネット型 ソフトバレーボール

授業計画 計 6 時間

授業実践 1 の授業の流れと大きく変化はないが、子供の実態を踏まえた工夫を取り入れた。具体的には、図 1 に示した展開段階(つくる・ふかめる)の話し合い活動の際に、書く作業を取り入れず、口頭で動きの確認をしながら話し合い活動を行った。その際、学習カードを用いることで、子供の運動に対する意欲の向上や、自分の課題を克服しようとする姿が見られた。

また、授業実践 2 では、話し合い活動のルールを決めた。内容としては、「①全員が発言するようにする、②お互いにプラスになることを発言する」とルールを決めた。これを踏まえて、話し合い活動の様子を見ていると、複数の子供が意見を出すようになり、話し合いの内容も動きに着目した話し合い活動になってきた。さらに、話し合い活動で学習カードを用いることで、自分の動きについて把握でき、動きを改善したり、強化したりするような話し合いができていた。つまり、話し合い

活動でどんなことを話し合えば良いのか具体的に示すことで、短時間で有効な話し合い活動になると考える。そして、自分の動きについて着目させ、改善したり強化したりすることが、自ら運動をつくりだすことにつながると考えた。

## 4 成果と課題

本研究における成果は、学習カードの工夫が話し合い活動に有効であることがわかった。今回使用した学習カードは、①動きの高まりを段階的に示したカードと②個人の目標を明確にする話し合いカードの 2 種類を用いた。

学習カードの具体的な内容としては、動きの高まりを段階的に示したカードは、「①自己の動きの現状把握ができること、②子供の意欲を向上させること」を目的とした。話し合いカードでは、「①誰からアドバイスをもらうのか、②実際に受けたアドバイスはどのような内容だったのか、③アドバイスを受けて上達するためにはどんなことに気をつけてどのような練習をすると上達するのか」が視覚的にわかるように工夫した。

これら 2 種類のカードを使うことで、子供の話し合い活動の内容が動きに注目するようになり、自分の課題について考えるきっかけになった。また、事後アンケートの結果から、「①約 9 割の子供において学習カードが話し合い活動に役に立った②約 8 割の子供において自分が苦手な課題に積極的に取り組むことができた」と回答していることから学習カードを通して話し合い活動が活発になり、自ら運動に取り組む力が高まったといえる。

この成果を受けて、今後究明していくこととしては、次の 2 点である。1 点目は、教師の発問に着目し、子供が自ら運動に取り組むような発問を究明していくことである。2 点目は、話し合いを行う際の人数や形態に着目し、短時間でさらに有効な時間にするための方法を究明していきたい。

## 主な引用・参考文献

- 藤崎敬 岩下和夫 編著 2013 授業で使える全単元の学習カード 中学年編 東洋館出版社  
 文部科学省 2017 小学校学習指導要領解説 体育編  
 清水由 2013 編著 プロ教師に学ぶ 小学校体育科授業の基礎技術 Q&A 東洋館出版社  
 白旗和也 編著 2011 小学校体育授業の重点指導 中学年編 明治図書出版